# 「第 28 回スポーツ環境会議」議事録（要旨）

令和 8 年 7 月 10 日（金）10:00～12：00
本庁舎 6 階　第 2 委員会室

## 1　出席者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 岡　浩一朗　（学識経験者） | 12 | 鈴木　浩司　（生涯学習スポーツ課長） |
| 2 | 神田　隆弘　（区スポーツ協会） | 13 | 勝山　雄太　（新宿未来創造財団等担当課長） |
| 3 | 橋本　純　　（区スポーツ推進委員協議会） | 14 | 星野　隆仁　（地域包括ケア推進課長） |
| 4 | 金子　和子　（区レクリエーション協会） | 15 | 鈴木　明彦　（子ども家庭課長） |
| 5 | 村上　光一　（区高齢者クラブ連合会） | 16 | 袴田　雅夫　（健康政策課長） |
| 6 | 藤原　千里　（区障害者団体連絡協議会） | 17 | 女川　洋一　（みどり公園課長） |
| 7 | 斉藤　朝子　（区青少年育成委員会） | | |
| 8 | 野村　晋　　（区中学校 PTA 協議会） | | |
| 9 | 井元　毅　　（公募委員） | | |
| 10 | 西村　貴司　（公募委員） | | |
| 11 | 北畠　康浩　（スポーツ関連事業者） | | |

欠席者　5 名
田中　稔　　（区町会連合会）
森松　晃　　（区小学校 PTA 連合会）
加賀美　秋彦（新宿未来創造財団事務局長）
出沼　克友　（障害者福祉課長）
徳永　創　　（教育調整課長）

机上配付資料
資料１　　新宿区スポーツ環境会議委員名簿
資料２　　令和 7 年度新宿区スポーツ環境会議の振り返り
資料３　　区のスポーツ施策やスポーツ環境会議で取り扱う「スポーツ」の範囲について
資料４-１　新宿区スポーツ関連事業実績［ピックアップ事業］
資料４-２　新宿区スポーツ関連事業一覧
資料５　　新宿区スポーツ施設 利用者数推移
資料６　　新宿区のスポーツ実施率の推移
資料７　　スポーツ活動における熱中症事故の防止について

参考１　　熱中症特別警戒情報
参考２　　運動・スポーツにおける安全対策の評価・改善のためのガイドライン

情報提供１　　新宿ゆにスポ！（上半期）（生涯学習スポーツ課）
情報提供２　　車いすハンドボール体験会（生涯学習スポーツ課）
情報提供３　　陸上教室（生涯学習スポーツ課）
情報提供４　　わくわく！スポーツ探検 in しんじゅく（区スポーツ関係団体合同事業）
情報提供５　　バスケットボール教室（生涯学習スポーツ課）
情報提供６　　ラグビー教室（生涯学習スポーツ課）

**２　事務局**

新宿区　地域振興部　生涯学習スポーツ課

**３　会議内容**

**（１）開会**

**（２）生涯学習スポーツ課長あいさつ**

**（３）区民のスポーツ実施率の向上を図るための取組について**
**・区のスポーツ施策やスポーツ環境会議で取り扱う「スポーツ」の範囲について**

生涯学習スポーツ課　資料説明　資料2、3

＜ご意見・質疑応答＞

【橋本委員】

スポーツの範囲は色々あるなと思いました。この時期は結構地域の方が盆踊りをされているじゃないですか。私たちスポーツ推進委員の中でも、「盆踊りをスポーツと考えたことがありますか」という話になって、歴史などを学びながら実際にやってみました。

歴史については成城大学の先生にレクチャーいただいて、悪霊を祓うために行われていたという話などを学びました。その上で実際に体験してみると、やっぱり汗もたくさんかきますし、踊りながら「こうやった方がいいんじゃないか」と声を掛け合ったりして、コミュニケーションも生まれていました。意外とみんながスポーツだと思っていないものが、実はスポーツに近いんじゃないかなということを再発見できたように思います。

先ほどeスポーツの話もありましたけど、もちろん指先の動きが中心ではあるものの、身体を動かしたり運動したりする要素もあります。同じように、盆踊りも実際にやってみると結構汗をかくので、「意外とスポーツなんだな」と感じました。こういった活動も、地域の輪を広げる取組の中にどんどん取り入れていけるんじゃないかなと思います。今回の体験を通じて、スポーツをあまり狭く捉えない方がいいなと改めて感じましたので、実体験も含めて共有させていただきました。

【野村委員】

今、橋本さんのお話にありましたように、汗をかいたりすることもスポーツの一つと考えるのであれば、話を聞きながらふと思ったのが、例えばサウナはどうなのかなということです。サウナ自体は体を動かすわけではな

いので、一般的にはスポーツとは考えられていないと思います。ただ、汗をかいて血流を促したり、健康につながるという面で考えると、ある意味ではスポーツに近い要素もあるのかなと感じました。今はサウナも非常に盛んですし、そう考えると、これまでのスポーツに対する概念をあまり限定的に捉えなくてもいいのかなと思いました。あえて「これはスポーツ」「これはスポーツではない」と区切るのではなく、汗をかくことや健康づくりにつながる活動を広くスポーツの範囲として考えるという捉え方も、一つあっていいのではないかと感じました。

【藤原委員】
資料にまとめていただいた、令和7年度の会議で出たご意見の中で、何か具体的にこう取り組んでいますみたいなことがもしあれば、教えていただけたらと思います。

【生涯学習スポーツ課長】
後ほど、区の取組に関する資料の中でもご説明させていただきますが、特に気軽にできるという意味では、出張型のスポーツというのを今年度から新たに開催しています。

【藤原委員】
後で報告する予定でしたが、障団連でも出張で来ていただく取組をさせていただいています。大変ありがたく、このスポーツ環境会議のおかげかなと思ったりもしています。ありがとうございます。

【井元委員】
いわゆる新宿区のスポーツの考え方としては、運動も含めた広い意味でスポーツを捉えているようなので、それはそれで良いと思っています。私自身としましては、以前の会議でもお話ししましたが、スポーツというと、どちらかというと少し競技性のあるものをイメージしています。ただ、新宿区では、ジョギングやウォーキング、自転車など、一般的な運動も含めてスポーツとして捉えておられるので、その考え方は理解できますし、それで良いと思います。

【神田委員】
今のご意見で、私も全く同じように感じています。今日の出席者の顔ぶれを見ても、スポーツの範囲というのは限りなく広いということを改めて感じましたし、新宿区としても、そのような広い捉え方をして、この会議もまさにそうした考え方のもとで開催されているのではないかと思います。
そうした中で、例えば先ほど高齢者クラブの方の自己紹介でもお話がありましたが、これまで中心となって活動し、汗をかいてこられた指導者の方々が高齢になり、運営が難しくなってきているという課題があります。そこに若い世代、あるいは準高齢者といわれるような方々が参画していけるのかということが今日この会議に参加しているメンバーに期待されている役割なのではないかと感じました。
また、現在は公園でボール遊びやサッカー、ゴルフ、野球などが禁止されている場所が多くなっています。そうすると、子どもがサッカーボールを蹴ったり、親子でキャッチボールをしたりする場所がほとんどないのが現実です。ボール遊びについて、どこで線引きをするのかは、今後考えていく必要があると思います。
そうした中で、様々な競技団体が連携できる可能性があると感じています。多角的な連携を進めることで、それぞれの活動をつなぐ橋渡し役にもなれるという視点を持ちながら、この会議が進んでいけばいいなと思い

ます。少し話が広がりましたが、以上です。

【岡委員】

非常に難しいテーマだと思いますが、私自身は、この会議の名称がとても良いと思っています。というのも、様々な団体や立場の方が集まっている中で、「環境」という言葉で全体を串刺しにしているところに大きな意味があると感じています。

先ほど神田委員からもお話がありましたが、「環境」というのは単に物理的な場所や施設だけの話ではないと思います。「環境」をどのようにつくっていくのかということは、場所の問題だけでなく、仕組みやシステムの問題でもありますし、人と人とのつながりといった社会的な環境を整えることも必要です。また、必要な情報をどう届けるかという情報環境についても整備していかなければならないと思います。そういう意味では、あらゆる面で「環境」が重要になっている時代だと感じていますし、時代の変化に合わせて、その「環境」をどう整備していくのかを議論するための場が、この会議なのではないかと思います。

スポーツの定義については本当に難しい問題です。私たちも研究の中では便宜的に定義を置くことがありますが、分野が違えばスポーツの捉え方や概念も大きく異なります。ただ、一方で何の共通認識もなく進めてしまうと、それぞれがそれぞれの立場で考えるだけになってしまいます。施策を検討していく上では、ある程度のコンセンサスを得ながら進めていくことが大切だと思います。

その上で、いつも申し上げているように、誰一人取り残さないことを意識しながら、もし足りない視点や対象があるのであれば、それを加えていく形で進めていければよいのではないかと考えています。私自身が何かをまとめられるというわけではありませんが、皆さんが日頃感じている貴重なご意見が、今後この会議の中で共有されていくことに大きな意義があると感じています。

また、先ほどの盆踊りのお話も大変興味深く、素晴らしい事例だと思いました。私の近くには神楽坂がありますが、阿波踊りも盛んですし、私自身は杉並区とも関わりがありますが、あちらでは阿波踊りに非常に熱心に取り組んでいる方々がたくさんいらっしゃいます。こうした地域に根差した活動も含めて、スポーツや身体活動をそれぞれの生活の中に自然に取り入れていくことが大切なのだと思います。スポーツ庁でも「Sport in Life」という考え方を掲げていますが、それぞれの人が自分の生活に合ったスポーツに取り組めるよう、今後も支援していければと考えています。

**・新宿区のスポーツ関連事業の実績とスポーツ実施率について**

生涯学習スポーツ課　資料説明　資料4～6

＜ご意見・質疑応答＞

【金子委員】

レクリエーション協会の立場からお話しします。資料 4-1 の中でパラスポーツ体験会の報告が掲載されていますが、3 月 15 日に実施した回は、他の日と比べて参加者数が大幅に多くなりました。

これは私たちにとっても初めての試みでしたが、ただ体験会を実施するだけでなく、障害のある方々の団体に発表していただく場を設けたことが大きかったと思います。会場の新宿スポーツセンターには舞台がありませんでしたが、ラインテープで広めのスペースを確保して発表の場をつくりました。参加団体の一つには、クリ

アソン新宿の試合で応援パフォーマンスを行っているブレイクダンスのグループがあり、50 人ほどが参加されていたと思います。お子さんが出演すると保護者の方も一緒に来場されるため、発表後に保護者の方にも体験会へ参加していただくことができました。

また、高田馬場福祉作業所にも参加していただきました。以前、「いきいき体操」の指導で伺った際にレクリエーションダンスのサークルがあることを知り、ぜひ発表していただきたいと思ってお声がけしたところ、担当の先生にもご協力いただき参加が実現しました。練習は月 1 回程度とのことでしたが、当日は発表してくださいました。このように、体験だけでなく発表の場を設け、一緒に参加できる機会をつくることも非常に良い取組だと感じています。

また、今回の体験会では、1 種目ではなく多種目を体験できるようにしたことも特徴でした。eスポーツ、パドルテニス、椅子に座ったまま片手でできる「手のひら健康バレー」、ボッチャなど、様々な種目を用意しました。参加者にとっては、多様なスポーツを体験できることが大きな魅力になっていると感じています。運営側としては準備の負担もありますが、多様な種目を用意するという視点は大切ではないかと思いました。

【藤原委員】

金子委員がおっしゃった内容を伺っていて、やはりスポーツというのは、何らかの目的意識を持って取り組み、その結果を誰かに見てもらったり評価してもらったりすることが、モチベーションにつながる面もあるのではないかと感じました。特に障害の重い方の場合は、日頃から活動には取り組んでいても、それを発表したり見てもらったりする機会は必ずしも多くないと思います。もちろんご本人のために取り組むことが大切ですが、そうした目的意識を持てる場が用意されているというのは、とても素晴らしいことだと思います。

また、そのような場の中で、健常者と障害のある方が一緒に参加できることにも大きな意味があると感じています。先ほど福祉作業所のお話がありましたが、福祉作業所には比較的知的障害のある方が多い場合もありますので、今後は身体障害や精神障害のある方など、障害種別の幅も少し広げながら取り組んでいけると、更に良いのではないかと思いました。そうした取組が広がれば、参加されるご本人だけでなく、ご家族の皆さんも一緒に関わることになりますし、更につながりが広がっていくのではないかと感じました。

【金子委員】

来年も 3 月 6 日に予定していますよね。今回のようなご意見がありましたら、それを踏まえて私たちも準備したいと思います。

【藤原委員】

ありがとうございます。ぜひ華やかな舞台を用意していただければと思いますので、よろしくお願いします。障団連の方でも声をかけてみたいと思います。

【井元委員】

私は存じ上げなかったのですが、資料 5 の 7 ページにある⑦江戸川河川敷グラウンドと⑧大宮けんぽグラウンドについてお伺いしたいと思います。これらはいずれも区外にある施設だと認識していますが、新宿区として何らかの関わりがある施設なのでしょうか。

【生涯学習スポーツ課長】

江戸川河川敷グラウンドにつきましては、区内だけではスポーツ施設の確保がなかなか難しい状況もありますので、そうした区外の施設をお借りして補完しているという形になります。また、大宮けんぽグラウンドにつきましては、現在、落合中央公園野球場が人工芝化と LED 化の改修工事により長期間利用できない状態となっているため、完全な代替施設というわけではありませんが、不足する利用枠を補完する目的でお借りしているグラウンドになります。

【井元委員】

期間についてですが、それらの施設はいつまで利用する予定なのでしょうか。例えば、何年度までといった利用期間が決まっているのであれば教えていただきたいと思います。

【生涯学習スポーツ課長】

大宮けんぽグラウンドにつきましては、もともと落合中央公園野球場が休場している間の代替施設として利用することを想定していました。ただ、一方で区内の活動場所がなかなか確保できないという状況もありますので、今後どのようにしていくかについては現在検討しているところです。落合中央公園野球場が再開したからといって利用を終了してしまうのか、それとも、利用状況を見ながら、必要とされている方がいるのであれば継続していくのか、という点も含めて江戸川河川敷グラウンドとともに検討しています。

また、借り上げに要する費用についても、高いと見るか安いと見るか様々な考え方がありますので、そのような点も比較・検討しながら、今後の利用期間や運用のあり方について判断していきたいと考えています。現時点では、具体的な終了時期までは決まっておらず、引き続き検討している状況です。

【井元委員】

分かりました。ありがとうございました。

【野村委員】

今、大宮けんぽグラウンドのお話が出ましたので、一点お話しさせていただきます。私は中学校 PTA 協議会の立場でもありますが、サッカー協会の方でも、小学生と社会人を対象とした組織で理事長を務めており、普段から大宮けんぽグラウンドを利用させていただいています。

その中で感じているのが、やはりアクセス面の課題です。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、最寄り駅からでもバスで 30 分程度かかるなど、公共交通機関で行くには少し不便な場所です。車を持っている大人であれば比較的行きやすいのですが、そうでない場合は移動の負担が大きく、チームとして利用するのは難しいという声も出ています。

そのため、今後どの程度の期間利用していくのかという点にも関わりますが、長期的な活用を考えた場合、利用率が徐々に下がっていく可能性もあるのではないかと懸念しています。そうした現場の声があることをお伝えしたく、発言させていただきました。

【橋本委員】

資料 6 についてですが、スポーツ推進委員として活動していると、スポーツ実施率についてはよく話題にな

ります。東京都全体でもスポーツ実施率 70%以上を目指している中で、今回の数字を見ると、東京都の昨年度の実施率 67.5%と比べても高い数字が出ており、全体としては良い傾向だと感じました。

一方で、世代別のデータを見ると、男性の 30 代や女性の 20 代・30 代など、子育て世代や働き盛りの世代と思われる層で少しばらつきが見られるように感じました。

実施率について、どこを目標値や上限値として考えるかはなかなか難しいところですが、全体として 70%に近づけていくためには、あともうひと息という印象です。そのためには、どの層に対して、どのようなアプローチをしていけば実施率が更に上がるのかということを考えていく必要があると思います。

資料４や施設の状況などを見ていると、スポーツに参加できる機会や環境は着実に広がってきていると感じていますが、障害のある方のスポーツ参加についても、今後より一層推進していく必要があると思います。

その際には、どうすれば実施率を上げられるのか、どのような取組が各世代やそれぞれの対象者に響くのかということを、この会議の中で考えていければよいのではないかと思います。先ほどからスポーツの定義についても様々な意見がありましたが、そうした視点も含めながら検討していくことが大切だと感じました。

明確な答えがあるわけではありませんが、全体としては非常に良い方向に向かっており、実施率も着実に向上していると感じていますので、あともう一歩、何か新たな工夫やエッセンスを加えることができれば、更に良くなるのではないかと思いました。

【藤原委員】

実施率のところについてですが、正直、この 69%という数字はこんなに高いのかと驚きました。私の周りには障害のあるお子さんを介護しているご家族が非常に多いのですが、その環境の中では「スポーツをやっています」という方はあまり見当たりません。そのため、全体としては 69%という高い実施率になっている一方で、取り残されている 31%の中に、障害のある方の家族や高齢者を介護している家族など、スポーツに取り組みたくても取り組みにくい方々が多く含まれているのではないかと感じています。

障害のある方のご家族は割合としてはそれほど多くないかもしれませんが、高齢者を介護しているご家族は今後更に増えていくことも考えられます。そうしたスポーツをしにくい状況にある方々へのアプローチも考えていかないと、全体の実施率を更に向上させることは難しいのではないかと思いました。

実際に介護者のスポーツ実施率を調べているわけではないので、数字として示せるものではありませんが、私が関わっている協議会などでスポーツ環境会議の内容を報告しても、スポーツの話題が積極的に出てくる状況ではありません。そのため、こうした方々が取り残されることのないよう、今後考えていただけると良いのではないかと思いました。

【金子委員】

スポーツ実施率が上がっている背景には、スポーツの捉え方の幅が広がってきたこともあるのではないかと思います。最近はウォーキングなどの身体活動に加え、eスポーツもスポーツの一つとして認識されるようになってきています。

そうした意味では、「自分もスポーツをしている」と考える方が増えたことで、実施率の向上につながっている部分もあるのではないかと感じましたが、いかがでしょうか。

【生涯学習スポーツ課長】

区政モニターアンケートでは、スポーツや運動を非常に幅広く捉えています。例えば、健康づくりや気分転換のためのウォーキングや散歩、少し歩くこと、エレベーターを使わずに階段を利用することなども、運動として回答いただく対象に含めています。

そのため、スポーツ実施率については、こうした日常的な身体活動も含めた幅広い形で把握しているという状況です。

【藤原委員】

ありがとうございます。ただ、先ほど自己紹介の際の岡先生のお話にもあったように、あえて余暇の時間に身体を動かすことが大切だという視点は、とても重要だと思っています。

例えば、介護にあたって、娘は 50kg くらいありますので、抱き上げたり下ろしたりするだけでも運動量としては少なくないと思います。ただ、それは自分がやりたくて行っている運動ではなく、生活の中で必要に迫られて行っている動作です。

そのため、ウェルビーイングという言葉もありますが、そうした恩恵を受けにくく、余暇としてスポーツや運動に取り組むことが難しい方々がいるということも、ぜひ意識していただければと思います。課題が大きいので、すぐに具体的な対策を講じることは難しいかもしれませんが、そうした方々に常に目を向けて政策を進めていただけるとよいのではないかと感じました。

【生涯学習スポーツ課長】

今、ウェルビーイングというお話をいただきましたが、スポーツ基本法や新宿区スポーツ環境整備方針の中でも、ウェルビーイングの向上は重要な目標の一つとして位置付けています。仰っていいただいた視点を持ちながら取り組んでいきたいと考えていますが、必ずしもスポーツ分野だけで対応できる課題ではないとも認識しています。

例えば、スポーツに参加することが難しい方については、直接スポーツをしてもらうという視点だけでなく、別の支援を通じて余暇の時間を確保できるようにするなど、異なるアプローチも考えられると思います。区では様々な部署がそれぞれ取組を進めていますので、そうした部署とも情報共有や連携を図りながら、誰も取り残さないという視点を持って進めていきたいと考えています。

【村上委員】

資料 3 の「スポーツ」と「目的」の部分についてですが、ここには一般的にスポーツと呼ばれるものが掲載されています。高齢者の視点からすると、家を一歩出た時点で既に運動が始まっているという感覚があります。先日も会議で、「乗り換えを 2 回して、さらにバスにも乗って、ようやくここまで来た」というお話をされていた方がいました。高齢者にとっては、会場に来るまでが運動で、到着して活動を始めるとスイッチが入ってスポーツの意識に切り替わります。そのため、資料の中でも、グラウンドゴルフや輪投げなど、高齢者が身近に取り組んでいる活動もスポーツとして例示していただけるとよいのではないかと思います。

一方で、実際には活動環境が十分に整っていないという課題もあります。例えば、公園でグラウンドゴルフができる地域もあれば、できない地域もあり、その差を感じているクラブもあります。先ほど、サッカーや野球が公園でできないという話もありましたが、例えばグラウンドゴルフであれば旗を 1 本立てるだけでも練習ができ

ますので、様々な活動ができるような環境を整備していただけるとありがたいと思っています。

【神田委員】

皆さんのお話を伺えば伺うほど、本当にスポーツの範囲は幅広く、この会議は非常に考えさせられる場だと感じています。例えばサッカー協会で言えば、競技として取り組んでいる方々がたくさんいます。東京都大会や全国大会につながる活動もありますし、クリアソン新宿も JFL で戦いながら J リーグ昇格を目指しており、まさに競技スポーツの世界です。少年サッカーや中学生のチームも同様ですし、社会人についても、仕事との両立を図りながら平日のナイターなどを活用して活動しています。

スポーツ協会の各団体も、基本的には競技団体ですが、その中で保護者や祖父母の方々、あるいは普段スポーツ団体に所属していない子どもたちにもスポーツに関わる機会を作ろうとしています。それぞれの団体が幅広い世代や立場の方々に働きかけていくことが大切であり、草の根的な活動を継続していく必要があると感じています。

また、スポーツの幅広い捉え方や様々な取組については、区や新宿未来創造財団でも多くの事業を実施していただいていますし、レクリエーションの分野でも子どもから高齢者まで参加できるような工夫がされています。ただ、その情報が十分に伝わっていないのではないかという印象もあります。コズミックセンターや地域センターなどを利用する方は情報を得る機会がありますが、実際には情報が届く範囲が限られているという課題があります。

そうした中で、先ほどのお話にもあったように、発表の場を設けることで家族も一緒に参加するという取組は非常に良いヒントになると感じました。実際に、出演者を応援するために来場した家族が、その後に体験会へ参加するという流れも生まれていました。例えば、9 月 27 日にクリアソン新宿が国立競技場で試合を行う予定ですが、そのような多くの方が集まる機会に区のスポーツ事業や体験会などの情報を案内できれば、これまで情報が届いていなかった方々にも知っていただけるのではないかと思います。せっかく区や財団が様々な事業を工夫して実施しているのであれば、それをより多くの方に知っていただく方法を考えていくことも重要ではないかと感じています。

また、本日ご出席の皆様の団体同士でも情報共有を行いながら、どのような連携やコラボレーションができるのかを考えていくことで、更に広がりのある取組につながっていくのではないかと思います。様々なアイデアには限りもありますが、お互いに知恵を出し合いながら進めていければ良いのではないかと感じました。

【岡委員】

1 点だけ確認させてください。スポーツ実施率の調査についてですが、スポーツ環境調査で用いた設問と区政モニターアンケートで用いた設問は、同じ内容だったと考えてよろしいでしょうか。

【生涯学習スポーツ課長】

全く一緒ではないです。区政モニターアンケートは掲載内容が限られているので、少しは簡略しています。

【岡委員】

そういうところも、この数字には影響しているのだろうなと思います。ただ、一方で、先ほどから各委員の皆さまから非常に良い意見が出ていたと思います。私自身が感じているのは、若い世代の数値が低いということは、

見方を変えれば伸びしろがあるということでもあると思います。つまり、私たちがまだ十分にリーチできていない層がいて、その人たちのニーズに合ったアプローチができていないということなのだろうと思います。

例えば、環境調査などのデータを分析すれば、どのような人たちが十分に運動できていないのか、その背景も見えてくるのではないでしょうか。20 代・30 代の女性を例にすると、「健康のために運動をしましょう」と言われても、なかなか響かないことがあると思います。私の周りにも若い研究者や学生がたくさんいますが、健康よりも美容への関心の方が高いと感じます。何がその世代の行動のきっかけになるのか、どのようなメッセージならアクティブな生活につながるのか、少しボタンの掛け違いのような部分があるのではないかと思っています。そうした視点を一つの戦略として考えていくことも大切ではないかと感じています。

もう一点、先ほどから話題に出ていますが、「誰かと一緒にやる」ということには非常に大きな意味があります。これは研究の面からも分かっていることです。もちろん一人で取り組みたい方もいらっしゃると思いますが、多くの場合、誰かに誘われたり、一緒に参加したりすること自体に大きな価値があります。

先ほどもお話がありましたが、例えば子どもに付き添って来た保護者が結果として体験に参加できたというように、本来の対象者ではない人が自然と巻き込まれる仕掛けは、とても有効なのではないかと思います。金子委員や神田委員がおっしゃったように、誰かを目的に場へ来てもらいながら、その周囲の人も結果として参加できるような取組を増やしていくことが大切だと思います。

いきなり「スポーツ体験に参加しませんか」と言われるとハードルが高いのであれば、「まずは簡単な測定をしてみませんか」といった入口でも良いと思います。そこで自分の運動不足に気付いたり、思ったより体力が落ちていることを実感したりすることがきっかけになるかもしれません。また、障害のある方とそのご家族が、競技性を競うのではなく、一緒に楽しみながら体を動かし、笑顔になれるような体験の場をつくることも考えられると思います。そのように、多様な人が自然と参加できる仕掛けや環境づくりという視点で考えていくことが重要なのではないかと思いました。

### （４）スポーツ活動における熱中症事故の防止について

生涯学習スポーツ課　資料説明　資料7

＜ご意見・質疑応答＞

【北畠委員】

新宿スポーツセンターの北畠です。資料にもありましたが、先日、新宿スポーツセンターで熱中症講座を開催し、多くの方にご参加いただきました。講座では、熱中症対策や子どもに対する熱中症予防の方法などについてお話しいただきました。

その中で印象的だったのは、熱中症対策は症状が出てから対応するだけではなく、環境そのものに目を向けることが大切だという点です。講師の方がワールドカップ会場の映像を紹介されていましたが、会場の熱気や湿度、人が密集することによる影響などによっても、熱中症が起こりやすい環境になるというお話がありました。自分で運動して汗をかく場合だけでなく、観戦しているだけでも注意が必要だということを改めて認識しました。

こうした内容を踏まえ、当施設では講座に参加できなかったスタッフにも当日の資料を共有し、簡単なレクチャーを行いました。その結果、スタッフの意識や行動にも変化が見られました。例えば、熱中症になってから水

分補給を促すのではなく、「あの方は少し危なそうなので、先に水分補給を勧めてもいいですか」といった、自発的な声掛けや予防的な対応が見られるようになっています。

熱中症は比較的軽く考えられてしまうこともありますが、実際には死亡事故につながることもある重大な問題です。命に関わる重要なテーマであるということを、今回改めて共有したいと思い、発言させていただきました。

【橋本委員】

熱中症対策について、現場で活動する中で以前から気になっていることがあります。屋外の活動では、クーラーボックスを持ち込んで飲み物を冷やしていることが多いのですが、屋内の施設では意外と飲み物がぬるくなってしまうことがあります。そのため、施設ごとに共用で使える冷蔵庫や氷などがあると良いのではないかと思っています。もちろん予算がかかる話ではありますが、せっかく購入した飲み物を冷たい状態で保管できる場所があると助かりますし、休憩時間には「みんなでそこに行ってクールダウンしよう」といった使い方もできると思います。スポーツセンターだけでなくコズミックセンターなども含めて、給水できる設備は整ってきている一方で、飲み物を冷やしておく場所やアイシングができる環境については、もう少し充実しても良いのではないかと感じています。

実際、私たちも車にクーラーボックスを積んで飲み物を冷やしておくことがありますので、施設側でもそうした環境が整えば、熱中症予防の面で更に効果的ではないかと思います。先ほどお話があったように、利用者や指導者の意識を高めていくことはもちろん大切ですが、それに加えて、物理的にクールダウンしやすい環境を整備することも有効ではないかと感じています。

【金子委員】

私も中学校でスポーツ交流会を実施していますが、体育館は空調が入っているので、皆さん比較的安心されています。ただ、それでも顔が赤くなっている方には水分補給を促すようにしています。

また、スポーツ交流会では毎回、スーパーで売っている袋入りの氷を 2 袋ほど購入して準備しています。使わずに余っても構わないという考えで用意していて、もし捻挫をした方がいればその場で冷やせますし、小分けにして希望する方に配ることもしています。実際に、帰る時に首に当てながら帰る方もいて、ちょっとしたことですが熱中症対策やクールダウンに役立っていると感じています。そういう意味でも、先ほどのお話にあったように、施設に冷蔵庫や氷を確保できる環境があるといいなと思います。

【橋本委員】

今のお話を聞いていて、やはり施設にそういった設備があるといいなと思いました。もちろん、施設ごとに予算の使い方や優先順位もあるので、一概には言えませんし、他にも色々なアイデアがあると思います。ただ、最近の暑さを考えると、冷房だけでは十分ではない場面もあるのではないかと感じています。飲み物や保冷剤を冷やしておける場所があったり、体を冷やせるものをすぐ使える環境があったりすると、熱中症対策として効果的ではないでしょうか。個人で準備しようと思えば対策はいくらでもできますが、施設側でそうした環境が整っていると利用者にとっても助かると思います。

屋外で活動する競技では特に必要性が高いと思いますが、サッカーなどでは実際のところどうなのでしょうか。外で活動されている立場からも、ぜひお話を伺えればと思います。

【神田委員】

我々も、熱中症にしっかり対応しなければいけないということを、本当にここ 4、5 年でようやく強く認識するようになりました。それまでは、水を飲むなと言われていた時代を経験してきていますし、頭から水をかぶりながらプレーしていたような世代です。ただ、今は状況がまったく違います。少年サッカーについては、7月・8月・9 月の大会はすべて中止にしています。公式戦は一切行わず、各チームの判断で練習をしていただく形にしています。また、先ほどお話に出ていたクーラーボックスや保冷剤、スポーツドリンクなどは、保護者の協力も得ながら、今では必需品として準備しています。

一方で、クリアソン新宿のトップレベルの選手たちは走り続けるための体づくりも必要なので、秋以降のシーズンに向けて、この時期もトレーニングを継続しなければならないという難しさがあります。

いずれにしても、熱中症対策については、サッカーに限らず、シニア世代や地域の団体を含め、すべての関係者が当たり前のこととして共有していかなければならないと強く感じています。何か起きてからでは遅いですし、特に区の施設を利用する際には自己責任だけでは済まない問題です。区にも迷惑をかけることになりますので、その点も含めて非常に重要な課題として取り組んでいます。

【岡委員】

熱中症については、「自分だけは大丈夫」と思ってしまう正常性バイアスが非常に大きいと感じています。特に高齢者の方には、その傾向が強いのではないでしょうか。この問題はスポーツの場面だけの話ではなく、新宿区民全体が当たり前のこととして対策し、対応していかなければならない課題だと思います。その中で、スポーツの現場からしっかり情報発信していくことにも大きな意味があると考えています。

例えば、手のひらを冷やすといった方法がありますが、それだけでも全然違います。外側ばかりを冷やそうとしがちですが、本当に重要なのは体の中の熱を下げることです。そうした正しい知識を多くの人が持つことが重要だと思います。

私たちはこれをヘルスリテラシーと呼んでいますが、新宿区民の皆さんが熱中症対策に関する知識を当たり前のように身につけている状態が理想です。例えば、外出先でペットボトル飲料を買ったら、それを活用して手のひらを冷やすといった行動も、高齢者を含めて日常生活の中で役立つ対策になります。これは必ずしもスポーツをしている時だけの話ではありません。

熱中症はスポーツの場面で発生しやすいからこそ、スポーツをきっかけに啓発活動を進め、正しい知識や対策方法を広く発信していくことが重要ではないかと思います。

【野村委員】

私自身もシニアのサッカーをしていますが、一昨年、埼玉県川越市のチームで、試合後に選手の方が倒れて亡くなられたというニュースが全国的に報道されました。その方は、実は数年前まで新宿で一緒にサッカーをしていた方で、本当に元気な方でしたし、特に体調不良の兆候も見られませんでした。それでも熱中症が原因で亡くなられてしまったということがあり、改めて熱中症の怖さを感じています。

大人はある程度自分で判断できますが、子どもや高齢者の方は「大丈夫だろう」と無理をしてしまうこともあります。そのため、周りがしっかりと気を配ることが大切だと思います。私は早稲田地域で少年サッカーのコーチも務めていますが、そこで行っている熱中症対策をいくつかご紹介します。

まず一つは、WBGT（暑さ指数）の測定です。これは何年も前から取り入れており、気温や湿度などを測定して危険度を判断しています。見た目には曇っていて涼しそうな日でも、WBGT 値が高くなっていることがあり、実際には非常に危険な場合もあります。そのため、数値を確認しながら、こまめな水分補給を子どもたちに促しています。

また、保護者向けには、家庭でできる氷のうの作り方なども紹介しています。例えば、牛乳パックを洗って水を入れて凍らせるなど、特別なものを買わなくてもできる方法をレクチャーし、日頃から準備していただけるようにしています。

さらに設備面では、「涼太くん」と呼ばれる大型の冷風機を活用しています。水のタンクと大型のファンが一体になったもので、風とミストによって周辺の温度を下げることができます。練習時にはグラウンドの四隅に設置し、顔が赤くなってきた子どもがいた場合には、その近くで休ませるようにしています。一方で、大型機器のため安全面にも配慮が必要です。子どもが一人で近づかないようにコーンで区画を設けたり、必ず担当者を配置したりするなど、事故防止の対策も併せて行っています。

【村上委員】

老人会としては、熱中症対策についてはもう何十年も前から取り組んでいます。具体的には、夏場は一切運動をしないという方針にしており、グラウンドゴルフの大会は 5 月と 10 月に実施しています。また、輪投げは室内競技ですが、12 月に開催するなど、できるだけ暑さを避けて活動するようにしています。

また、会場に来られた会員の皆さんには、必ずペットボトル飲料を配布し、水分をしっかり取るよう繰り返し呼びかけています。

### （５）各委員（団体）におけるスポーツ環境や活動に関する情報提供

【野村委員】

中学校 PTA 協議会の野村でございます。中学校では、先ほどもお話しした WBGT 測定器を活用しています。これは数年前まではほとんど認知されていなかったものですが、現在では各部活動でも積極的に取り入れています。グラウンドでの活動はもちろんですが、バスケットボールやバレーボールなどの屋内競技でも使用しています。体育館は意外と熱がこもりやすく、熱中症のリスクが高いため、屋内競技においても WBGT 測定器を使いながら活動しています。

また、換気にも気を配っています。エアコンが入っているから大丈夫ということではなく、適切に換気も行いながら活動するよう、各学校ともかなり意識して取り組んでいる状況です。

【北畠委員】

新宿スポーツセンターの北畠です。熱中症対策として、現在弊社で特に力を入れているのが「熱中症アンバサダー」の資格取得です。比較的短時間で取得できる資格なので、スタッフ全員が受講するようにしています。熱中症はどうしても軽く見られがちで、特に若い世代ほど危機意識が低い傾向があります。弊社の職員も 20 代前半の若いスタッフや学生が多く、知識として理解していても「自分は大丈夫」と思ってしまう人が少なくありません。そのため、資格取得を通じて知識を得て、その知識を現場でアウトプットしていけるよう取り組んでいるところです。

【西村委員】

公募委員の西村と申します。皆さんのように特別な取組や意見をお話しできるわけではなく、熱中症についても、これまで個人的にはそれほど強く意識していたわけではありませんでした。ただ、暑さを避ける工夫として、タオルを濡らして体を冷やすといったことは行っていました。

また、熱中症のこととは関係ありませんが、先ほどの利用者数や参加者数のお話を聞いていて、少し気になったことがあります。新宿区内には外国人の方が 5 万人ほどいると聞いていますが、こうした方々が利用者数や参加率の対象としてどの程度取り入れられているのか気になりました。利用者や参加者を増やしていくことを考えるのであれば、外国人の方々も含めて考えていく必要があるのではないかと思います。そうした視点も持ちながら取り組んでいくと良いのではないかと感じました。

【斉藤委員】

育成会という立場から、感じたことをお話しさせていただきます。私たちは各地域で、町会のボランティアを中心に運営している団体で、主に小学生を対象とした事業を行っています。新宿スポーツセンターやコズミックスポーツセンターで事業を行うだけでなく、区内でスポーツに触れたいと思っている方々にアプローチするうえでは、私たちのような地域団体も活用していただけるのではないかと思いました。我々自身も人材不足という課題を抱えていますので、一緒に協働できれば、今後の活動の幅も広がっていくのではないかと感じながらお話を聞いていました。

また、熱中症対策や安全管理についてですが、私たちは子どもを対象に活動しているため、日頃から非常に気を遣っています。ただ実際には、私共は熱中症対策の専門家ではなく、地域のボランティアが中心ですので、何か起こった時にどう対応すればよいのか不安を感じる場面もあります。たまたまその場に詳しい人がいて対応できたといったような、実はそうした偶然に頼っている部分もあるのではないかと思っています。そのため、スポーツを行う人への支援だけでなく、事業を支えるボランティアや従事者が安心して活動できるような研修や取組についても、今後更に充実していくと良いのではないかと感じました。

【橋本委員】

スポーツ推進委員の橋本です。冒頭の挨拶でも少しお話ししましたが、本日欠席されている方々も含め、町会の皆さんと一緒に地域のコミュニティスポーツ大会を実施しています。毎年 10 月頃から区内 10 地区で、スポーツ推進委員、町会の皆さん、地域の小中学校の皆さんと協力しながら開催しています。競技種目はビーチボールバレー、輪投げ、ユニカール、ボッチャなどが中心で、地域によっては更に種目が増えることもあります。熱中症対策の観点から開催時期を少し後ろにずらしていますが、それでも暑い日がある中、多くの地域の方々に、町会単位で参加していただいています。

今年も実施を予定しておりますので、関係する皆さまへのお声がけや情報発信を行いながら参加者を募集していきたいと思います。ぜひご参加いただければと思います。

【神田委員】

先ほど外国人の方のお話がありましたので、その点も含めてお話しします。私どもはクリアソン新宿を代表チームとして、新宿区と包括連携をさせていただいています。サッカー協会では、少年、女子、中学生、社会人、

シニアまで幅広い年代の活動を支えており、多くの方が仕事をしながらボランティアで指導や運営に関わっています。私自身も 68 歳ですが、今も現役でサッカーを続けています。

サッカーを通じて感じるのは、外国人の方との親和性の高さです。サッカーは国によっては国技とも言えるスポーツで、新宿区でも、中国やミャンマー、ベトナムなど、様々な国の方々が関わっています。私が会長になった 12 年前と比べても、新宿区内の外国人の割合は更に高くなっていると感じています。

クリアソン新宿では、新大久保商店街でパンフレットを配布していただくなど、地域との連携を進めています。スポーツを応援していただくことを通じて、歌舞伎町や事件の話題だけではない、新宿の明るいイメージを発信していきたいと考えています。また、外国人の方々にも応援していただき、地域とのつながりを広げていければと思っています。

クリアソン新宿の選手たちは平日にも地域で活動しており、福祉施設や特別養護老人ホームを訪問して、サッカーボウリングなどの交流事業を行っています。地域をいくつかのエリアに分けて継続的に訪問することで、顔の見える関係づくりを進めています。

そうした活動を続ける中で、「また来てくれたね」と言っていただける関係が生まれます。そして、新国立競技場での試合などの際に、「応援に来てください」とお声がけすると、それが地域の皆さんの楽しみや励みの一つになればいいなと思っています。

ちょうど外国人の方のお話が出たので、そうした地域との連携や人づくり、まちづくりの取組についてお話しさせていただきました。

【金子委員】

8 月 2 日に開催する「わくわく！スポーツ探検 in しんじゅく」についてご紹介します。お手元の資料にチラシが入っていると思いますが、「やってみたい」と思ったときに気軽に体験できる機会をつくりたいという趣旨で企画しています。

当日は、スポーツ協会やレクリエーション協会に加盟している団体が会場でお待ちしており、来場いただければ様々なスポーツやレクリエーションを体験できます。子どもから大人まで参加できますので、「ちょっとやってみたいな」と思う種目があれば、ぜひご参加いただきたいと思います。ご近所の方にもぜひご案内いただければと思います。こうした機会を通じて、少しでも多くの方にスポーツに親しんでいただければと考えています。

【地域包括ケア推進課長】

地域包括ケア推進課長の星野です。先ほどのスポーツの範囲についてのお話は大変興味深く伺っていました。私どもでは、高齢者を対象に地域交流館などで「いきいき体操」をみんなで行うなどの取組を進めています。地域交流館からは、特に男性の場合、ある程度競技性のあるプログラムの方が参加につながりやすいという話も聞いています。一方で、高齢者の引きこもり防止やフレイル予防という観点では、競技そのものだけでなく、まず外出していただくことや、人と交流することも重要です。出かけることで自然と体を動かす機会が増え、社会参加にもつながります。そのため、私たちとしても、人とつながりながら体を動かせるような活動や取組を進めているところです。今日は皆さんのお話を興味深くお伺いさせていただきました。

【健康政策課長】

健康政策課長の袴田です。健康政策課では、健康づくり施設として「元気館」を運営しています。元気館は

昨年度まで約 2 年間、改修工事のため休館していましたが、今年 4 月にリニューアルオープンしました。再開後、利用者の方々も戻ってきており、現在は多くの皆さんにご利用いただいている状況です。ぜひご利用いただければと思います。

【新宿未来創造財団等担当課長】

新宿未来創造財団等担当課長の勝山です。新宿未来創造財団の担当として、様々な施設の管理を行っています。本日は多くのご意見をいただき、ありがとうございます。

また、事業面では資料 4-2 に掲載しているとおり、財団で様々な事業を実施していますが、その多くは本日ご参加いただいている委員の皆様に支えていただきながら運営しています。改めて感謝申し上げます。

財団独自の取組としては、本日配布したチラシにもありますが、これまでスポーツにあまり関わってこなかった方でも気軽に参加できる事業を、令和 8 年度から新たに実施しています。先ほど口コミの話もありましたが、こうした取組について、ぜひご家族やご近所の方にもお知らせいただき、多くの方に参加していただければと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

【みどり公園課長】

みどり公園課長の女川です。本日は様々なお話をありがとうございました。

みどり公園課では、区内約 180 か所の公園を管理しています。代表的な公園として新宿中央公園があり、花のもりの整備なども進めていますが、公園はやはり多くの方に利用していただいてこそ価値があるものだと考えています。

一方で、先ほど神田委員からもお話がありましたが、公園には一定のルールがあります。そのルールを守りながら利用していただくことが大切です。新宿中央公園だけでなく、地域には身近な公園が数多くありますので、ぜひ積極的に活用していただければと思います。

また、公園を利用する際には、ルールを守ることに加え、譲り合いや思いやりも重要です。そうした意識は、公園利用だけでなくスポーツにも通じるものだと感じています。ぜひ地域の身近な公園を、譲り合って利用していただければと思います。

【岡委員】

情報提供です。スポーツ庁では現在、第 4 期スポーツ基本計画の策定を進めており、3 日ほど前に中間報告案が公表されたところです。この会議に参加されている皆さんはスポーツ振興に関わる立場でもありますので、興味をお持ちの方も多いのではないかと思います。

内容としては、競技スポーツやアスリートの育成に関する部分もありますが、それ以上に、スポーツに取り組む人を増やしていくという視点が大きな柱として示されています。詳細については資料を無料でダウンロードできますので、関心のある方はぜひご覧いただければと思います。国の考え方と新宿区の方向性は必ずしも同じではないと思いますが、今後の取組を考える上で参考になると思いますので、情報提供としてご紹介させていただきました。

【野村委員】

中学校 PTA 協議会の野村です。今回初めてこのスポーツ環境会議に参加しましたが、スポーツ環境という

テーマで一番お伝えしたいのは、先ほども申し上げましたが、公園でサッカーや野球ができなくなっている現状についてです。なぜここまで制限されるようになったのだろうと感じています。私たちが子どもの頃は、公園で普通にサッカーや野球をして遊んでいました。もちろん近隣への配慮は必要ですが、今はそうした機会そのものが少なくなっています。

私はこれまで小学校や中学校に関わる中で、経済的な理由からスポーツクラブや習い事に参加することが難しい子どもたちが少なくないことを感じています。そうした子どもたちが「サッカーをやりたい」「野球をやりたい」と思っても、実際には始める機会が限られています。

また、「無料で参加できるイベントがあります」と言っても、そうした情報が必ずしも子どもたちに届くわけではありません。スポーツセンターやコズミックセンターまで行って情報を得ることも、現実的には簡単ではないと思います。

子どもたちがスポーツを始めるきっかけは、まず公園で友達と一緒にやってみることではないでしょうか。そう考えると、極端な言い方かもしれませんが、お金がないとスポーツに触れる機会さえ持てないような状況になってしまっているのではないかと感じます。もちろん難しい課題であることは承知していますが、ボールを蹴ったり、キャッチボールをしたりできる環境を少しでも取り戻していければと思います。スポーツの入口は、そうした身近な遊びの場にあるのではないかと感じています。

【みどり公園課長】

ご意見ありがとうございました。先ほどご紹介させていただきましたように、区内には約 180 か所の公園がありますが、公園は子どもから大人まで、誰もが自由に利用できる場であることが大きな意義だと考えています。

その中で、すべての公園ではありませんが、一部の公園には、いわゆる「キャッチボールコーナー」を設けており、ボールを使った活動ができる環境があります。小学生の子どもたちにも利用していただける場所です。

ただし、そうした場所もスペースが限られているため、利用者が多いときには譲り合いや時間帯の調整をしていただきながらご利用いただいています。十分とは言えないかもしれませんが、ボール遊びやキャッチボールができる場所として整備している公園もありますので、ぜひそうした施設も活用していただければと思います。

**（６）その他**

次回のスポーツ環境会議は1月に開催予定

**（７）閉会**